

1. 一般的項目： 婦人科腫瘍(0期を除く)初回治療件数

▶ 項目の解説

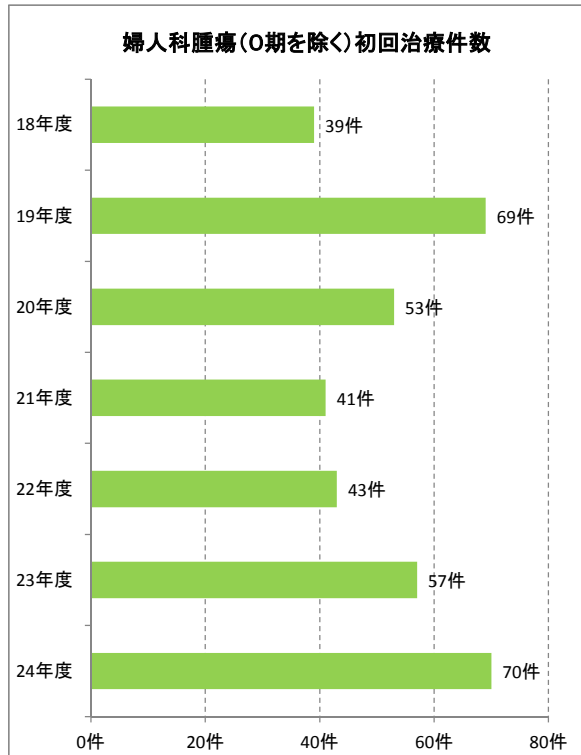
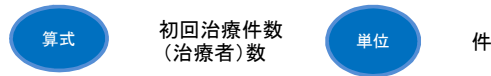
宮崎県がん拠点病院として、大学病院産婦人科での婦人科腫瘍の総数を示します。
 婦人科がんには、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、陰癌などがあります。
 初回治療として手術、放射線療法、化学療法などがあり、集学的に婦人科腫瘍を治療するための多診療科間協力と、看護師、薬剤師、診療放射線技師などとの共同が必要です。この数値は、大学における体制やスタッフ、施設の充実度を示します。

▶ 定義

子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、陰癌などの初回治療の総数を示します。

コメント

多少の波はあるものの、全体として一定～増加傾向にあります。



2. 大学病院特有項目： 早産(28週未満)の母子管理数

▶ 項目の解説

周産期医療の中でも28週未満の早産児の予後は不良です。
 そこで、28週未満、1000g未満の超低出生体重児は第3次医療施設である大学病院での集学的管理が重要で、小児外科、小児循環器、脳外科、眼科、耳鼻科などの多診療科の協力が重要です。
 この数値は、周産期医療を専門的に取り組む大学における体制やスタッフ、施設の充実度を示します。

▶ 定義

母体-胎児-新生児をひとつのユニットとして数えます。
 (通常は母体数)

コメント

早産の総数は減少していないが、その中の超早産数(28週未満)は減少の傾向を示しています。その大部分は大学病院で管理されています。

